2009 年 4 月作成

HISTOFINE

研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

CD99モノクローナル抗体(O13)(ヒストステイナー用)

(動物種：マウス)

包装：　60 テスト(12mL)　　Code：713871

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402
東京都中央区築地６－１９－２０
TEL.03(3248)2208 FAX.03(3248)2243

■本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬　第一抗体である。

■**特異性および抗原分布**：ヒト CD99 抗原(別名：MIC2 または E2 抗原)(30-32kDa)と特異的に反応する。CD99 抗原は細胞膜および細胞質に存在する糖タンパクであり、X 染色体の短腕と Y 染色体に存在する MIC2 遺伝子の産物である。正常では、胎児 B 細胞などの一部を除くリンパ球、胸腺細胞および膵島細胞に強く発現がみられる。腫瘍では、神経外胚葉を起源とする小円形細胞肉腫であるユーイング肉腫(Ewing's sarcoma：ES)の 95%、未分化神経外胚葉性腫瘍(Primitive Neuro - Ectodermal Tumor：PNET)、末梢性神経上皮腫(peripheral neuroepithelioma：PN) において発現がみられるが、その他の小円形細胞腫瘍(small round cell tumor：SRCT)である神経芽細胞腫、悪性リンパ腫、横紋筋肉腫では、他の肉腫、癌腫、そして神経外胚葉性腫瘍と同様に発現はみられない。しかし、B-リンパ芽球型の悪性リンパ腫や滑膜肉腫、骨肉腫、横紋筋肉腫、線維形成性小細胞腫瘍の一部に発現がみられる場合がある。ES、PNET および PN とその他の SRCT との鑑別に有用である。

■**国際抗体分類**：Fifth International Workshop and Conference on Human Leucocyte Differentiation Antigens (1993)でCD99に分類されている。

■**クローン名**：O13

■**抗体のサブクラス**：IgG1

■**免疫原**：ヒト悪性黒色腫細胞株 MeWo

■**製法**：マウスの腹水から精製して得ている。

1. 内容

第一抗体・・・CD99モノクローナル抗体(O13)(動物種：マウス)。
液状。
ウシ血清アルブミン(BSA)と、0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)中にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。
1 バイアル中に 12mL を含む。

2. 使用目的

組織・細胞中の CD99 の染色。

3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)としてヒストファイン 抗原賦活化液 pH9(Code:415201 または Code:415211)にてオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

■**参考**：組織の固定状況等によりヒストファイン　抗原賦活化液 pH9(Code：415201 または Code：415211)の替わりに 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある(裏面の■参考参照)。

4. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。
1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。
2) 染色終了後、すみやかに2－8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

6. 貯法

2－8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織（細胞）化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD99ﾓﾉｸﾛｰﾅﾙ抗体(013)
試薬略称(10 文字)	CD99-MM
バーコード	CD99-MM
時間(分)	30

8. 主要文献

(1) N. C. Dracopoli, et al: Am J Hum Genet 37:199-207,1985
(2) N. Weidner, et al: Am J Surg Pathol 18:486-494,1994
(3) M. Ozdemirli, et al: Am J Surg Pathol 22:795-804,1998
(4) Mai Gu, et al: Am J Surg Pathol 24:410-416,2000

■研究用としてのみ使用すること。

■切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片（3－4μm厚）をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン　→　親水化　→　PBS
3. 前処理(抗原賦活化)：オートクレーブ処理
   ①緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
   ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
   ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
   ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
   ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
   ※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
   ⑥スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ビンを使用する)。

・抗原賦活化液pH9の作り方

・Code：415201　抗原賦活化液pH9（調製済)は、そのまま用いる。
・Code：415211　抗原賦活化液pH9（10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。

■参考：10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)オートクレーブ処理を用いる場合(おもて面の■参考参照)

・10mM クエン酸緩衝液（pH6.0）の作り方

A液9mL+B液41mL+精製水450mL（用時調製）

A 液：0.1M クエン酸水溶液：常温で保存可能
　　クエン酸一水和物（$C_6H_8O_7 \cdot H_2O$）2.1g／精製水 100mL
B 液：0.1M クエン酸ナトリウム水溶液：常温で保存可能
　　クエン酸三ナトリウム二水和物（$C_6H_5O_7Na_3 \cdot 2H_2O$）14.7g／精製水 500mL

ここから必要な時に調製する。